

「中国ギガビット・シンポジウム 2004」

【JGN2 イベント利用報告書(イベント-002)】

1 日時 平成16年5月13日(木) 14:00~16:30

2 場所

主会場/岡山県会場：岡山テルサ(都窪郡早島町)

副会場/鳥取県会場：鳥取県立県民文化会館(鳥取市尚徳町)

島根県会場：テクノアークしまね(松江市北陵町)

広島県会場：広島大学情報メディア教育研究センター(東広島市鏡山)

山口県会場：山口大学共通教育棟 SCS 教室(山口市大字吉田)

3 目的

JGN II を用いた(超)高速・高帯域伝送の実体験を通じ、今後のJGN II の利活用促進に資するとともに、シンポジウムでの講演や発表・論議等を通じ、大学等研究機関のみならず行政や企業等各方面においてJGN II を活用したネットワーク利用技術やアプリケーション技術等の研究開発及び試行・実証等活動の活発化を図る。

4 テーマ 「教育分野でのネットワーク活用」

5 企画内容

(1) 基調講演

①演題/『インターネット天文台奮闘記～地域と教育の活性化～』

②講師/和歌山大学学生自主創造科学センター教授 尾久土 正己(おきゅうど まさみ) 氏

(2) パネルディスカッション

①テーマ/『教育分野でのネットワーク活用』

②コーディネーター/広島大学情報メディア教育研究センター教授 相原 玲二 氏

③パネリスト/岡山会場：岡山県立鴨方高校教諭 大島 修 氏

鳥取会場：鳥取県教育センター研修主事 小椋 崇喜 氏

島根会場：川本教育委員会 谷川 賢治 氏

広島会場：広島市立大学情報処理センター助教授 前田 香織 氏

山口会場：山口大学理学部助教授 藤沢 健太 氏

ゲスト出演：麗澤大学情報システムセンター長 林 英輔 氏

※次世代の研究開発用超高速テストベッド・ネットワーク(JGN II)等で5箇所の会場を接続しTV会議システムを活用して実施。

6 主催・共催

中国超高速ネットワーク連絡協議会、中国総合通信局、中国情報通信懇談会、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、広島大学、山口大学、情報通信月間推進協議会

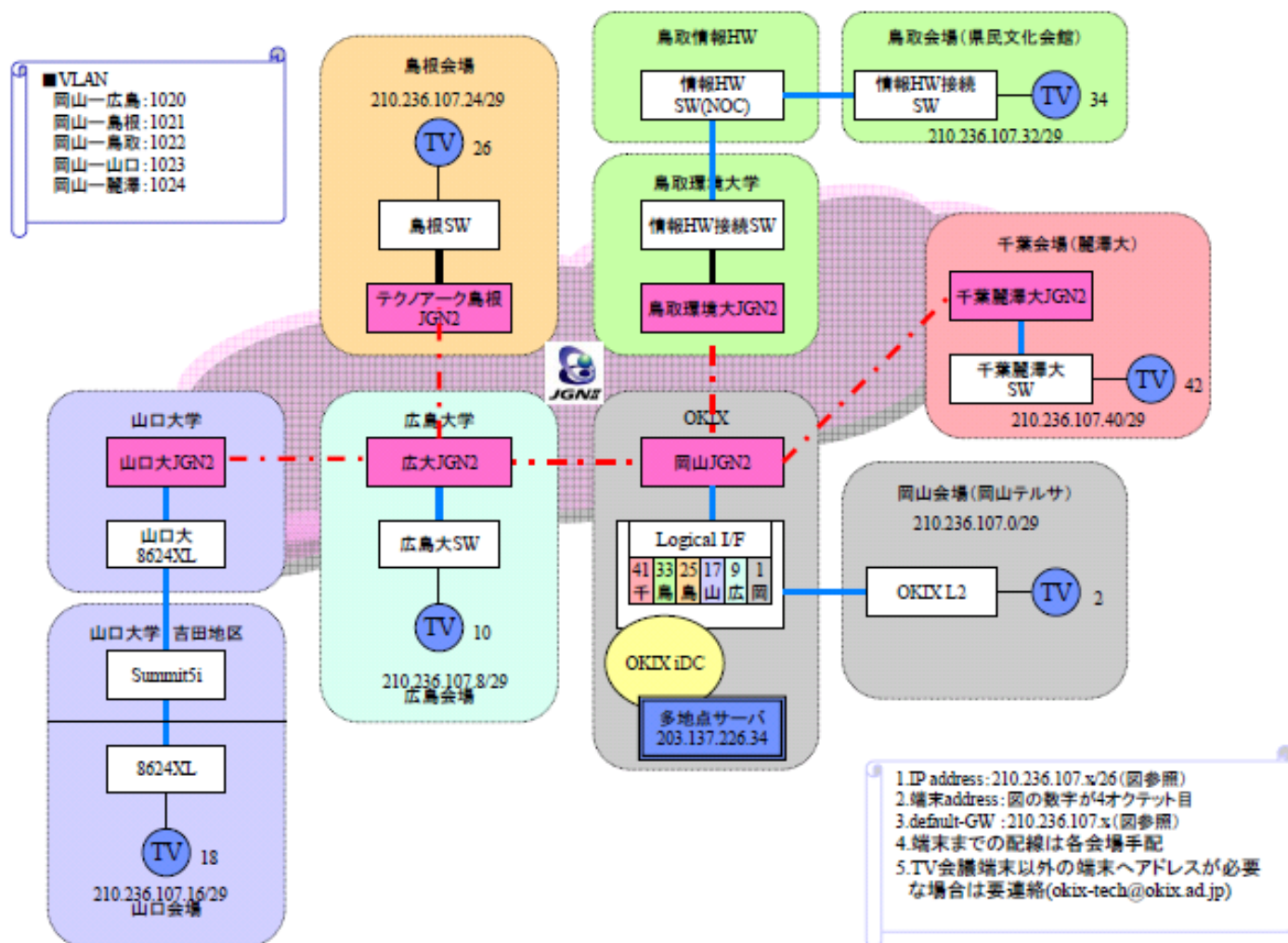
7 協力 岡山県高度情報化推進協議会

8 後援 独立行政法人情報通信研究機構

9 参加者数 合計 280名

(内訳) 岡山150名、鳥取30名、島根24名、広島30名、山口43名、千葉3名

中国ギガビット・シンポジウム構成 —セグメント分割—



【実施結果(各会場での評価・所見等)】

1 岡山会場

基調講演における尾久土先生の「インターネット天文台奮闘記」について、大変好評であった。パネルディスカッションにおいても、6箇所の遠隔地点を結んでもなお、十分にディスカッションできるシステムに、今後期待できるネットワークといった認識ができた。

2 鳥取会場

全般的に成功したと考えるが以下の問題があった。

①出演者について

教育分野ネットワーク活用という大きな分野から出演を依頼したが、他県出演者は天文学関係者多く、話題にズレがあった。更に事前の調整が必要と思われる。

②カメラ操作

副会場のカメラ操作が、主会場のカメラに影響があることが前日になってわかり、その対策に時間を要した。

3 鳥根会場

鳥根会場は、JGN2の設置後初めての利用ということもあり、建物内のアクセスポイントから会議室までの配線など自営で準備を行ったが、JGN2のネットワーク仕様など不明な点が多く非常に作業が難航しました。(TAGVLANの使用など、今回初めて聞いた仕様により、急遽、機器の調達が必要になったことなど)

今回の内容は企業などの研究開発に携わる専門家のみならず一般の方も対象にしたものというコンセプトだったかと思いますが、ネットワーク面(JGN2)の利用促進を図るための技術的なアピール、例えば、数メガ程度の高速通信に対応したシステムで接続することなど・・・ができれば、さらにイベントの効果が得られ

たかと思います。特に島根会場では、NHK技術担当者、医療従事者、IT関連企業などの参加者がありましたので、その点のアピールがもう少し欲しかったように思います。

4 広島会場

基調講演、パネルディスカッションの事例報告ともに具体的な事例を含み、今回のテーマである「教育分野でのネットワーク活用」に沿った有意義な内容だった。ただし、すべてが成功事例であり、良かった点ばかりがクローズアップされているように思われた。イベント的ではなく、真に定常的な教育利用を目標とするならば、今回のシンポジウムを含め、成功事例の裏には入念な準備と試行錯誤が必要であることにもっと注目する必要があるように思われる。

またコーディネータの相原先生も指摘されていたが、今回のパネルディスカッションはすべてのパネリストが各県会場に分散する形で行われたため、報告が一方向的で討議が活発化しなかったという感が否めない。利用技術、演出方法、進行方法など、遠隔テレビ会議の形態に合わせた工夫が必要と思われる。

5 山口会場

各地域の取り組みを、地元会場で居ながらにして聞くことができ大変有益だった。

ただ、テレビ会議システムがDVT Sでなかったために、JGN IIの力が発揮できなかったと思われる。

また、テレビ会議システムを使って多地点を結ぶパネルディスカッションを行うのは、難しいと感じた。

【各会場の模様】

岡山会場



鳥取会場



島根会場



広島会場



山口会場

